Stabat mater

13 世紀に生まれたカトリック教会の聖歌。ヤコポーネ・ダ・トーディ（Jacopone da Todi）の作とされる。イエスの刑死に際して、その母マリアが受けた悲しみを思う内容で、ラテン語の強弱四歩格で書かれている。

15 世紀頃から「悲しみの聖母の記念日（9/15）」のミサのためのセクエンツィア（続唱）として歌われるようになった。トリエント公会議（1545-63）でいったん廃止されたが、1727 年に復活された。

歌詞には 13 世紀のオリジナル版と、16 世紀にパレストリーナらが 1577 年頃から編纂を命じられた「Graduale Romanum」版がある。実際の作曲においては、双方が混在していることが多い。

私が所有する当曲の CD の歌詞カードを比較してみると、全編オリジナルの歌詞なのはペルゴレージ、逆に全編新しい歌詞なのはヴェルディである。プーランクは 1 カ所のみ、ロッシーニは 2 カ所、ドヴォルザークは 5 カ所が新しい歌詞である。Graduale Romanum の編者であるパレストリーナのものが一番混在の度合いが大きく新しい歌詞は 6（5.5）カ所である。

以下、旧版歌詞を正本とし、相違点がある節においては、旧版を赤字、その後に新版を青字で表記した。また、その歌詞を採用した作曲家名略称も付記した。パ（Palestrina）、ペ（Pergolesi）、ロ（Rossini）、ヴ（Verdi）、ド（Dvorak）、プ（Poulenc）

①

Stabat	mater	dolorosa	悲しむ母は立っていた、
立っていた	母は	悲しい	
V3s 未完了（sto）	fs 主	形 fs 主	
juxta	Crucem	lacrimosa,	十字架の傍らに、涙にくれて、
近くに	十字架	涙にくれた	
副	fs 対	形 fs 主	
dum	pendebat	Filius.	御子が架けられているその間。
～の間	掛かっていた	御子が	
conj	V3s 未完了（pendeo）	ms 主	

②

Cujus	animam	gementem,	その呻き
その	魂を	呻いている	
関代 s.属	fs 対	V 現分→形 fs 対	※ gemo（呻く）の現分 gemens の fs 対
contristatam	et	dolentem	悲しみ、苦しんでいる魂を
悲しんでいる		苦しんでいる	※ contristo（悲しませる）の完分 contristātus の fs 対
V 完分→形 fs 対		V 現分→形 fs 対	※ doleo（苦しむ）の現分 dolens の fs 対
pertransivit	gladius.		剣が貫いた。
貫いた	剣が		
V3s 完	ms 主		

③

O	quam	tristis	et	afflicta	何と悲しく、打ちくだかれたことか。
何と,どんなに		悲しい		打ち砕かれた	
副		形 fs 主		形 fs 主	
fuit	illa	benedicta,			そんなにも祝福された
	そのように	祝福された			
beV3s 完	指形 fs 主	形 fs 主			
mater	Unigeniti!				神のひとり子の母が。
母が	一人子の				
fs 主	形→名 fs 属				

④

Quae maerebat et dolebat, どんなに嘆き、悲しんでいたか

どんなに　嘆いていた　悲しんでいた

quis の fp 主　V3s 未完了　V3s 未完了

et tremebat cum videbat そして震えていたか、 パペロプ

震えていた　～の際　見ていた

V3s 未完了　V3s 未完了

nati poenas incliti. 世に知られた息子の罰（十字架刑）を見ていた際に。

息子の　罰を　知られた、周知の

ms 属　fp 対　形 ms 属（inclitus ＝ inclustus）

④’ Quae maerebat et dolebat, どんなに嘆き、悲しんでいたか

pia Mater, dum videbat 慈悲深い御母は ヴド

慈悲深い　母は　～する間　見ていた

形 fs 主　fs 主　conj　V3s 未完了

nati poenas incliti. 名高い息子の罰（十字架刑）を見ていた間に。

⑤

Quis est homo qui non fleret, 泣かない人があるだろうか、

誰が　（人は）　～ない　泣く

疑 who　beV3s 現　ms 主　関代 s 主　副　V3s 未完了・接続法

Christi matrem si videret もし、キリストの母が ペロプ

キリストの　母を　もし～して　見て

ms 属　fs 対　conj　V3s 未完了・接続法

in tanto supplicio? 責め苦の中にあるのを見たならば。

～に　これほどの　罰・苦痛

prep　形 ns 奪　ns 奪

⑤’ 2 行目 matrem Christi si videret （語順のみ） パヴド

⑥

Quis non posset contristari 誰が悲しまないでいられようか、

誰が　～ない　～できる　悲しむ

疑 who　副　V3s 未完了・接続法　V 現･不定詞･受動

Piam Matrem contemplari 敬虔な母が、 ペロプ

敬虔な　母を　眺めて･見つめて

fs 対　fs 対　V 現･不定詞

dolentem cum Filio? 御子とともに嘆いているのを見つめて。

嘆いている　～と共に　御子

V 現分→形 fs 対　prep　ms 奪

⑥’ 2 行目 Christi Matrem contemplari キリストの母が パヴド

キリストの

ms 属

⑦

Pro	peccatis	suae	gentis	その民の罪のために
～のために	罪	彼の	民の	
prep	np 奪	指形 fs 属	fs 属	

vidit	Jesum	in	tormentis,	イエスが、拷問と
見た	イエスを	～の中に	拷問	
V3s 完	ms 対	prep	np 奪	

et	flagellis	subditum.	鞭打ちに服従しているのを（御母は）見た。
～と	鞭打ち	服従している	
conj	np 奪	形 ms 対	

⑧

Vidit	suum	dulcem	Natum	（御母は）愛しい御子が
見た	その	愛すべき	御子を	
V3s 完	指形 ms 対	形 ms 対	ms 対	

morientem	desolatum,	孤独に死ぬのを見た、
死ぬのを	孤独な	
V 現分.対※	形 ms 対	

パペプ

⑧’ ※moriendo（動名詞.与 or 奪、意味は変わらない）

ロヴド

dum	emisit	spiritum.	魂を放出して（茫然と）。
～の時	放出した	魂を	
conj	V3s 完	ms 対	

⑨

Eia,	Mater,	fons	amoris	さあ、御母よ、愛の泉よ
さあ	母よ	泉よ	愛の	
間投詞	fs 呼	ms 呼	ms 属	

me	sentire	vim	doloris	私に悲嘆の強さを感じさせてください。
私に	感じさせよ	強さを	悲嘆の	
代 1s 対	V2s 現･受･命	(vis) fs 対	ms 属	

fac,	ut	tecum	lugeam.	そして、あなたと共に悲しませてください。
～させよ	～ように	あなたと共に	悲しむ	
V2s 命令	conj	副	V1s 現･接続法(lugeo)	

⑩

Fac,	ut	ardeat	cor	meum	(そして)私の心を燃えさせてください
～させよ	～ように	燃える	心を	私の	
V2s 命令	conj	V3s 現･接続法	ns 対	所形 ns 対	

in	amando	Christum	Deum	神なるキリストへの愛の中で、
～の中で	愛	キリストを	神を	
prep	ms 奪(←形 amandus)	ms 対	ms 対	

ut	sibi	complaceam.	その御心にかなうように。
～ように	彼自身に	受け入れられる	
conj	再帰代(sui)与	V1s 現･接続法	

⑪

Sancta Mater, istud agas, 聖なる母よ、(そうして下さい)

聖なる 母よ そう して下さい

形 fs 呼 fs 呼 指代 ns 主 V2s 現・接続法(ago)

crucifixi fige plagas 十字架に架けられた(御子の)傷を

十字架に架けられた 刻めよ 傷を

形 ms 属 V2s 現・命令 fp 対

※ crucifixus が省略された fili(ms 属)に掛かり、fili が plagas に掛かる

cordi meo valide. 私の心に強く刻みつけてください。

心に 私の 強く

fs 与 所形 fs 与 副(← validus 強い,valde)

⑫

Tui Nati vulnerati, あなたの傷つけられた子の、

あなたの 息子の 傷つけられた

代.2s 属 ms 属 V 完分→形 ms 属※

※形 vulneratus(傷つけられた)←動 vulnero(傷つける)

tam dignati pro me pati, こんなにも、私のために堪え忍ぶと決心された、

こんなに ～と決心された ～のため 私 堪え忍ぶこと

副 V 完分→形 ms 属 pre 代 1s 奪 V 不定.現(patior)

※ dignatus ← dignor

poenas mecum divide. その罰を私にも分けてください。

罰を 私とともに 分けよ

fp 対 副 V2s 命令

⑬

Fac me vere tecum flere, 私に、あなたと共に真の涙を流し ペロドプ

～せしめよ 私を 真に 汝とともに 涙を流す

V2s 命令 代 1s 対 副 副 V.不定詞.現

crucifixo condolere, 十字架につけられる激痛を感じさせて下さい、

十字架につけられる 激痛を感じる

V 完分→形 ms 奪 V.不定詞.現

donec ego vixero. 私が生きている限り。

～まで 私が 生きる

conj 代 1s 主 V.1s 未来完了

⑬’1 行目

Fac me tecum pie flere, ..あなたと共に敬虔な.. パヴ

～せしめよ 私を 汝とともに 敬虔に 涙を流す

V2s 命令 代 1s 対 副 副 V.不定詞.現

⑭

Juxta	Crucem	tecum	stare,		十字架の傍らにあなたと共に立ち
近くに	十字架	汝とともに	立つ		
副	fs 対	副	V.不定詞.現		
te	libenter	sociare			喜んで、打たれる苦しみを　ペロドプ
あなたを	喜んで	共有する			
代 2s 対	副	V.不定詞.現			
in	planctu	desidero.			あなたと共にすることを私は願います。
～の中で	打たれること	(私は)願う			
prep	ms 奪	V1s 現			

⑭’

Juxta	Crucem	tecum	stare,		十字架の傍らにあなたと共に立ち
et	me	tibi	sociare		そして打たれる苦しみを　パヴ
そして	私を	あなたに	共有する		
conj	代 1s 対	代 2s 与	V.不定詞.現		
in	planctu	desidero.			(私に)あなたと共にすることを私は願います。

⑮

Virgo	virginum	praeclara,			輝かしき処女たちのなかの処女よ
処女よ	処女たちの	輝かしい			
fs 呼	fp 属	形 fs 呼			
mihi	iam	non	sis	amara,	どうか今、私に辛辣にせず
私に	今	～せず		辛辣な	
代 1s 与	副	副	beV.2s 現.接	形 fs 主	
fac	me	tecum	plangere.		あなたとともに嘆き悲しませてください。
～せしめよ	私を	汝とともに	嘆き悲しむ		
V2s 命令	代 1s 対	副	V.不定詞.現		

⑯

Fac,	ut	portem	Christi	mortem,	どうか私に、キリストの死を担わせ、
～せしめよ	～ように	担う	キリストの	死を	
V2s 命令	conj	V1s 接現	ms 属	fs 対	
passionis	ejus	sortem,			彼の受難の運命を担わせ、　ペ
受難の	彼の	運命を			
fs 属	代 ms 属	fs 対			
et	plagas	recolere.			その傷を熟慮させてください。
	傷を	熟慮する			
conj	fp 対	V2s 現.命.受動			

⑯’ 2 行目

passionis	fac	consortem,			(彼の)受難と同じ運命を担わせ、　パロヴドプ
受難の	～せしめよ	同じ運命の			
fs 属	V2s 命令	形 fs 対			

⑰

Fac me plagis vulnerari, どうかその傷を私に負わせて下さい

～せしめよ 私を 傷 傷つける

V2s 命令 代 1s 対 fp 奪 V1p 不定.現.

Cruce hac inebriari, 私をここで十字架によって酔わせて下さい

十字架によって ここで 酔わせる パペロドプ

fs 奪 副 V1p 不定.現.

ob amorem Filii. 御子の愛と引き換えに。(御子の愛のために)

～と交換に 愛 御子の ペロドプ

pre ms 対 ms 属 ob(～のために、～と引き換えに)※

⑰’2-3 行目

fac me Cruce inebriari, 私を十字架によって酔わせて下さい ヴ

～せしめよ 私を 十字架によって 酔わせる

V2s 命令 代 1s 対 fs 奪 V1p 不定.現.

et cruore Filii. そして御子の血によって。 パヴ

血によって 御子の

ms 奪 ms 属

⑱

Inflammatus et accensus 火をつけられ燃やされた パペロドプ

点火する、燃焼する そして 火をつける

V 完分、形 ms 主 conj V 完分、形 ms 主

per te, Virgo, sim defensus 私が、乙女よ、あなたによって守られますように、

～により あなた 乙女よ ～であるように 守られる

pre 代 2s 対 fs 呼 V1s(sum)接.現 V 完分→形 ms 主

in die judicii. 裁きの日において。

～に 日 裁きの

pre ms 奪 ns 属

⑱’1 行目

Flammis ne urar succensus, 火をつけられ炎によって燃やされないよう

火によって ～ないよう 燃やされる 火をつけられる ヴ

fp 奪 副 V1s 接.現.受動 V 完分

⑲

Fac me cruce custodiri, 私を十字架によって守られますように、

～せしめよ 私を 十字架によって 守られる

V2s 命令 代 1s 対 fs 奪 V 不定.受動.現

morte Christi praemuniri, キリストの死によって前を防がれますように、

死によって キリストの 前に堡塁を置かれる

fs 奪 ms 属 V 不定.受動.現

Confoveri gratia. 恩寵によって慈しまれますように。 パペロドプ

慈しまれる 恩寵によって

V 不定.受動.現 fs 奪

⑲’

Christe,	cum	sit	hinc	exire,	キリストよ、この世を去る時には
キリストよ	～の時は	～である	ここから	去る	「去る」の主語はキリスト(sit=V3s)
ms 呼	conj	V3s 接.現.	副	V 不定.現	

da	per	Matrem	me	venire	御母によって私を
与えよ	～によって	母	私を	至る	
V2s 命	pre	fs 対	代 1s 対	V 不定.現	

ad	palmam	victoriae.	勝利の栄誉へ至らしめてください　ヴ
～へ	棕櫚＝栄誉	勝利の	
pre	fs 対※	fs 属	※棕櫚は殉教・勝利の象徴

⑳

Quando	corpus	morietur,	肉体が滅びる時には
～の時	肉体が	死ぬ・滅びる	
conj	ns 主	V3s 未来	

fac,	ut	animae	donetur	どうか魂に与えられるようにしてください、
～せしめよ	～ように	魂に	与えられるように	
V2s 命令	conj	fs 与	V3s 接.受動	

paradisi	gloria.	天国の栄光が。
天国の	栄光が	
ms 属	fs 主	

Amen.　　アーメン　※

※．ロッシーニの曲では Amen の後に以下のフレーズが付加されている。

In	sempiterna	saecula.	代々永遠に。
～に	永久の	時代・世代において	
pre	形 np 対	np 対	